

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 飛幡 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.5	77	6.3	70	22.2	62	6.8	45
全国	24.8	77	6.5	72	23.3	65	7.2	48

(2) 本校の学力調査結果の分析

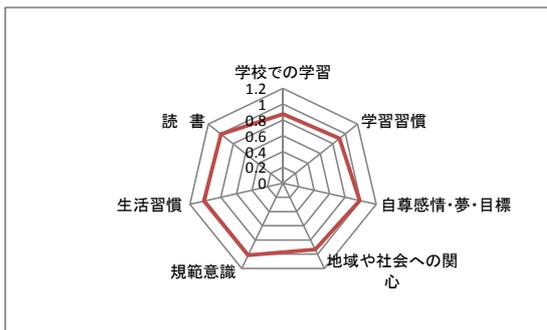
国語A	全体的な傾向や特徴など	全校平均正答率と同程度であった。特に、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の問題の正答率が高かった。ただ、通常の授業でも感じるのだが、ニュアンスの違いなどによる言葉の使い分けなどが弱いようである。語彙力が乏しい傾向があるため、今後、辞書を手に置く等しながら授業に取り組んでいく。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	特筆すべき問題は特にはない	
	努力が必要な問題	9六1 楷書と行書との違いを理解する	

国語B	全体的な傾向や特徴など	国語Aで言及した点が、文章表現力にも影響していると思われる。作文は「嫌い」と思う生徒はさほど多くないが、作文を「苦手」とする生徒は多い。今後、文章表現の基礎の定着や語彙力の向上のため、書く機会を増やす取組を積極的に進めていく。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	特筆すべき問題は特にはない	
	努力が必要な問題	1三 表現の仕方について捉え、自分の考えを書く	

数学A	全体的な傾向や特徴など	全校平均正答率を下回っているが、「円柱の体積を求める問題」や「二元一次方程式が表すグラフを選ぶ問題」では平均を超える正答率になっている。ただ、「証明で用いられている三角形の合同条件を書く問題」や「反比例の表から比例定数を求める問題」に課題が見られるため、今後、図形の性質を論理的に考察し表現する力や比例、反比例の関係について理解を深め、関数関係を見だし表現し考察する能力を身に付けさせていく。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	1-1 分数の乗法の計算 2-1 数量の関係を文字式に表す	
	努力が必要な問題	2-4 等式をyについて解く 14-2 度数分布表からある階級の相対度数を求める	

数学B	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回っているが、「資料の活用」の分野では平均を超える正答率になっており、資料やグラフから必要な情報を読みとることができる傾向がある。ただ、「数と式」、「図形」の問題に課題が見られるため、今後、文字式から関係を読み取る活動や事柄が成り立つ理由を説明する活動等を積極的に取り入れていく。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	3-1 表やグラフから必要な情報を読みとる 5-1 資料から必要な情報を読みとる	
	努力が必要な問題	4-1 証明をすることができる 4-2 図形の性質を用いることができる	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・人の役に立ちたいと考えている生徒は全国平均を上回っているが、将来の夢や目標を持っている、自分には良いところがあると思うという質問に関しては全国平均を下回っている。このことから、人の役に立ちたいと考えてはいるものの、その方法がまだ見いだせていない状況にあると考えられる。 ・授業における振り返りの活動が全国平均を下回っている。また、授業における話し合い活動の実施が全国平均を大きく下回っている。 ・家庭学習の取り組みが全国平均に比べかなり不足している。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事要請授業やモデル授業を実施し、校内研修を通じて、組織的な授業改善を行っていく必要がある。 ・各教科において適切な課題を出し、その都度、適切な評価活動を行うことで、授業改善を図る。 ・話し合い活動を行うために必要なツールの充実を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習チャレンジハンドブック」をPTA理事会や学校ホームページ等で紹介し、保護者への学力向上に向けた啓発活動を行う。 ・学校だより、学級通信などをさらに充実させ、家庭との連携を図り、学校生活の様子を具体的に紹介することによって、子どもと親が家庭で共に過ごし、話題を共有することができるようにする。
--